

益城の文化財

土山の太子堂(土山)

国道443号線、土山四つ角から飯田山常楽寺への旧参詣道の集落の途中に、四方に小高く石垣をめぐらせた「太子堂」があります。本尊は聖徳太子像です。



土山の太子堂

『土山の歴史』によると、「太子はわが国文化の開祖で、焼き物などの伝来普及にも力を注ぎ、欣仰する心の神」とされています。土山地区の祖先は、瓦業の始まりと同時に御本尊を「瓦の神」として信仰してきました。本尊聖徳太子像は、飯田山常楽寺に安置してあったものを瓦師たちの手により旧参詣道に移し祀ったとも伝えられています。

「土山瓦」の生産が始まったのは、加藤清正が熊本築城に必要な大量の瓦を焼かせるために、江戸から瓦師を現在の熊本市東区小山(戸島)に連れてきたことが起源とされています。土山瓦師と江戸瓦師の優れた技術は、「御用瓦」としてその名を誇りました。

土山地区で瓦の生産が盛んに行われた背景には、土山周辺から原材料となる良質な粘土が採取できたこと、瓦を焼くために必要な火力の強い燃料である「松」が飯田山一帯に豊富に存在していたことがあげられます。明治、大正にかけて隆盛を極めた土山瓦も原材料不足やセメント瓦の普及、他地域生産瓦の増加などで次第に廃業せざるを得なくなり、昭和63年、土山瓦生産の象徴であった「だるま窯」に最後の火が入れられて400年近く続いた「土山瓦」の歴史は幕を閉じました。

地域の人々から「太子さん」と呼ばれているこの堂は、文政13(1830)年に創建されました。嘉永、大正、昭和に続き平成13年には、地域の人々の浄財で大改修がなされ、現在の太子堂になりました。

太子堂では「組」による清掃が毎月行われ、毎年10月22日は住職を招いてのお経と座による祭りが行われています。

太子堂には今なお先人たちの篤い信仰がしっかりと受け継がれています。

参考文献 『益城町史』 益城町史編纂委員会編
益城町文化財保護委員会

おたより紹介

表紙(11月号)の彼岸花街道はすごくきれいで、見ていて元気を頂きました。 川崎市 外木 宏明

毎週土曜日のプール教室、楽しみながら頑張っています！ P.N 猫大好き

先日、娘と一緒に同居する形で佐賀から益城町へ引越してきました。孫と一緒に毎日が楽しいです。いい環境で嬉しいです。 宮園 大串 悦子

夜、河川敷を夫と一緒にランニングしてます。街灯もあるので走りやすいです。 匿名希望

さむくなってきましたね。こたつをだして、セーターやファンヒーターだして冬じたくしました。 平田 津川さとみ

子育て最中の親は余裕がなくイライラしてつい子どもの悪い所ばかり見て…。私たちおばあちゃんになると、ちょっと余裕が出てきますよ!! 子育て…1人で悩まず近所の人に力を借りてみたら…。益城っ子頑張れ〜お母さんニッコリ♡ 赤井 吉村美智子

わが家の天使



とよずみ まお ちゃん
豊住 真生 (福 富)

9月で1歳になりました。毎日の成長がとても嬉しいです。これからも家族のアイドルでいてね。

パパ 和久さん ママ 加奈重さん



ながれや たいき くん
流矢 大暉 (広崎1町内)

あちこちよじ登ったり、エッと目を丸くして何か言いたげにしゃべったり、毎日元気いっぱい!

パパ 政文さん ママ 明子さん